

## 土を触ることの大事さ（園長つばやき）

6月8日に、毎年恒例の芋の苗植えが行われました。天気の心配もありましたが、当日は好天に恵まれ、無事に年中と年長の子ども達が約70株近い芋の苗を、“ひまわり農園”に植えることができました。



ひまわり農園には、芋以外にも季節に応じた様々な植物、野菜が定期的に植えられており、子ども達も遊びながら、自然に触れることが出来るようになっていきます。現代社会において、“土に触れる”機会は大人の私たちも含め大きく減少しているところではないでしょうか？

最近ニュースを見ていると、ある学術誌に論文が発表されたそうです。内容は「土壌に生息する細菌に、抗炎症や免疫調節、ストレス耐性などの性質がある——。そんな研究結果を、米国の研究チームが発表した。アレルギーやメンタルヘルス障害の原因のひとつとして、わたしたちが泥や土に触れる生活から離れたことも影響していると示唆されている。」というものでした。昔から、土を触る機会が多かった人間が、現代において様々なアレルギー・ストレス等の原因の一つは、この土に触る機会の減少が一因になっているということは、感覚的には納得できることだと感じました。



作物の栽培を通して、「食べ物の大切さ、育てる難しさ、そして感謝する心」など、食育的側面を持っていることも確かですが、人間本来の“土を触ることで得られるもの”も、こういった機会で培っていきたいと改めて感じます。もちろん植えるだけでなく、途中の管理部分（水やりや草取り）も子ども達と一緒にすることが、さらに大事になると思います。年中・年長の子ども達は、“自然の時間”を通して、生き物や植物に対する経験・体験は多くなっており、自然に水やりをしていることも多く見られますよ。前回紹介した“10の姿”から見ると“健康な心と体”と“自然との関わり・生命尊重”が特に大きく育つ活動場面なのではないでしょうか？